

交流

発行日:平成21年5月1日 第4号

福島日中文化交流会 事務連絡先

〒960-0613 福島県伊達市保原町字内町21-5

TEL/Fax 024-575-2071 携帯:090-2360-3275

Email:mayumi_mihojp@yahoo.co.jp



マーじゃん大会開く

リーチ麻雀 福島店にて

平成20年度健康マーじゃん教室の総決算として3月29日にマーじゃん大会が行われました。今回はマーじゃん指導でお世話になっているWAC福島サロンの皆さんが例会で利用されている雀荘(リーチ麻雀さん福島店)での、全自動麻雀卓を使用した本格的なマーじゃん大会となりました。



さすがにWACの皆さんが利用されている店だけあって店内は明るく清潔でスタッフの皆さんの対応も素晴らしく、楽しい時間を過ごすことができました。

今回は、WACから塚原会長・石引副会長、それから花架拳教室の飯田先生のご主人が参加してください。麻雀卓の使用方法から、ゲームの進め方、役の説明まできめ細かくサポートしていただきました。

優勝賞品は、映画「レッドクリフパート2」の招待

券、その他参加者全員にもそれなりの賞品を用意しました。それに



追加して飯田先生から、惜しくも実力を出せなかった下位10人の人達に花架拳賞を、佐藤満さんからブビー賞とブビーメーカー賞を寄付していただき、大会に花を添えていただきました。

当日は、朝10時から昼食を挿んで午後3時まで、高度な役作り・戦略を駆使した戦いから、「如何したら良いの」とサポートを受けながらの戦いまでと、みんなで楽しくマーじゃんを楽しむ健康マーじゃん教室の大会にふさわしいものとなりました。

結果は、総得点118,200点で、高橋重夫さんが



優勝し映画の招待券を獲得されました。優勝された高橋さんは、実力をいかに発揮されて堂々の優勝でした。惜しくも優勝を逃した皆さんは、実力がそのまま出ないのが試合の常、結果は時の運、はじめての場所で地の利がありませんでした。マーじゃんを知っていても、知らなくても楽しめることを目的とした健康マーじゃん教室の大会ですが、それでも本格的に雀荘で大会をしたら楽しそうだとこのことで計画しましたが、皆さんのお陰で無事大会を行うことができました。WACの皆さん、リーチ麻雀さん福島店の皆さん、そして参加していただいた皆さんには大変お世話になりました。(斎藤 佐久男)

文化交流祭春節開く



留学生の水餃子が好評

中国の大晦日に当たる1月25日、恒例の春節交流祭が開かれました。昨年はコラッセふくしまでの開催でしたが、今回は図らずも日本のお雑煮、あんこ餅(お汁粉ではなかった)と、留学生を中心とした中国の皆さんによる水餃子との競演になりました。



参加者は当交流会々員20数名に、中国の皆さん10数名、場所は中央学習センターの調理実習室で、出来上がるまでの2時間というもの、両国語が飛び交い和気藹々、とても楽しい調理のひと時でした。



さて、競演の判定は？ 軍配は 中国の水餃子ですね。日本のお雑煮、あんこ餅の《味道》は旨かったから、2階の調理室と3階の会場、餅の搗きあがり時刻等を考え、段取りよくやればよかった。

焼き餅なら兎も角、搗き立ての餅を熱いおつゆの鍋に入れたのが失敗ですね。あれでは、おつゆ自体がどろっとしてしまっ。ゴメンナサイ。

昔わが家では元日に餅を搗き、円くちぎった二つ、三つの餅をお椀に分けて、お汁を加えておりました。

搗き立ての餅は本当に美味しいのですから、大勢の場合は、特に食べるまでのお膳立てが肝心。その点水餃子は、冷めましたけれど皮からして本場を感じましたし、具の味もよく好評でした。



その後の交歓会は、いつもながら斎藤佐久男さんにより、カルタ取りや福笑い、ビンゴゲームの企画から、沢山のサッカーボール、バスケットなど賞品の手配までお世話になりました。お蔭さまで大いに盛り上がりました。



カルタ取りで「行くわよォ」

ビンゴゲームではトップを切ったのが福建省出身の留学生林枝さんで、狙っていたのか、バスケットボールを手にした時のその喜びよう、回りからも沢山の拍手でした。

(注) 林枝さんは、本紙に感想文を寄せられ、

この件についても触れております。

林さんに限らず中国の方々には、概ねよい賞品が当たり、あんこ餅のお土産もあって、皆さん大満足のうちに散会となりました。



(佐藤 満)



満話乱書

野球に見る天の情けと戒め

野球の第2回ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)は、日本が決勝戦で接戦の末に韓国(北京五輪優勝)を下し、連覇を果たして感動のうちに幕を閉じた。3年前の第1回の際は、準決勝の韓国戦が、中国語学習団員として上海へ出発の日だったし、国中が興奮に沸いたというキューバとの決勝戦も、上海に居たのでテレビ観戦は叶わなかった。従って一行の一人から日本の優勝を知らされた時は、これぞ天の情けとそう思った。

覚えて居らっしゃる方も多いと思う。2次リーグのアメリカ戦でVTRでは完全にセーフなのに、3塁走者のリタッチが早いとしてアウトになった。王監督は主審のデービットソンに抗議したが受け入れられず、結局この試合は敗退。そのあと2度目の韓国戦にも敗れて万事休すと思われたが、メキシコがアメリカに競り勝ち、失点率によって準決勝に進出した。その失点率は何と0.01ポイント、アメリカを上回ってのことだから驚く。王監督は「神風が吹いた」と言ったそうだが、この言葉どおり正に奇跡で、第1回WBCの優勝に繋がった。

×

今回の勝利についても私は天の情けを感じた。それは平成15年秋の甲子園球場で、阪神との最終戦のあと星野仙一監督から花束を渡され「また戻って来い」と激励された原監督が、唇をかみ締め目に涙を浮かべていた情景を思い出してのことである。

この年巨人の首脳陣は、前年に日本一(それも無傷の4連勝で)を成し遂げた原監督を、僅か2年で辞任

させ、特別顧問に追いやった。彼はその仕打ちに堪え、2年後には体たらくの堀内監督(巨人で唯一勝率5割を割った監督)の後を受けて、再び監督に返り咲き今度の偉業となった。

今回、〈お荷物〉とまで言われたイチローが、韓国の顔を立てた天のお膳立ての延長戦で、絶好の機会を与えられ、決勝の適時打を放って面目を施すし、王ジャパン、侍ジャパン共に天の〈自ら助くるものを助く〉の証しと思うのである。次に天が最も厭う「おごり」に対する天の戒めの例を紹介しよう。

日本シリーズで3連勝しながら、そのあと4連敗して優勝を逸したケースは過去に2回あり、何れも選手の「おごり」の発言が禍して優勝を逃がしている。その一つは平成元年の日本シリーズで、巨人に王手を掛けた近鉄の立役者加藤博人投手の発言だ。「巨人がこんなに弱いとは思わなかった。うちの(パ・リーグ最下位の)ロッテとやっても負けるんじゃないですか？」新聞社はこの一言が巨人選手を怒らせ、逆転の4連勝に繋がったと書き立てたが、怒ったからと言って4連勝出来るものではない。これは天の戒めであろうと私は思う。

勝利は慢心を生む。過去の戦争がそうであった。

そしてもう一つは、昭和33年水原率いる巨人が、広岡の「おごり」の発言で三原の西鉄ライオンズに、日本シリーズ3年連続負けを食らったことだ。後楽園から敵地の平和台に移った第3戦で、決勝の3塁打をたたき出した広岡は有頂天だったのだろう。

その日の座談の席で広岡は、中西、豊田、稲尾らを前に「評判の水爆打線って、あんなもんですか？」と話し掛けた。負けん気の強い中西、豊田は無言。稲尾が「あんなもんです。」とそれを受けた。後日、野球雑誌でこの座談記事を読んだ時(当時スポーツ紙はなかった)、私はあの広岡がと驚いた。そして、このために翌日は雨による順延となって、天は西鉄に味方し巨人が負けたと思った。この時の西鉄優勝で生まれた言葉が《神様、仏様、稲尾様》である。敗因を一番痛感したのは広岡自身であったろう。彼はこれを天の戒めとして精進したに違いない。何となれば、彼は後年オーナーが変わったライオンズ(西武)の監督になって、二度(昭和57、58年)も日本一の荣誉に浴しているからである。

人民日報が示す 「日本に学ぶ」の論調

「70%以上の日本人が中国に対してよい感情を持ってない」……昨年末、内閣府が発表したこの調査結果は「それほどまで！」と驚く一方で、「やっぱりなァ」と納得せざるを得ない数字でもあった。

4年前の2005年4月、インターネットで煽られた反日デモが北京、上海はじめ各地で荒れ狂った。日本大使館や領事館、日系企業などに向かってレンガや石礫を投げつける若者たち、それを阻止もせず薄ら笑いで見守るだけの警官隊の様子がTVで放映され、うそ寒い気分になった記憶はまだ新しい。

その後も農薬入り餃子事件、在日中国人による凶悪犯罪などなど、日本人の神経を逆撫でするような事柄が後を絶たない。中国嫌いが大勢を占めるのもやむを得ないところがある。しかし、だからと言ってこのまま溝を深めるのは両国ともに不幸なことだ。一衣帯水の隣人同士である日中は、別れることが出来ない夫婦みたいなもので、互いの欠点を抉るだけでなく、よいところも認め合って仲良く過ごしたいものである。

そういう点で、最近の人民日報には日本見直しを呼びかける論評が散見され、大いに興味をそそられている。その二、三の概略を紹介する。



《今こそ三度目 日本に学ぼう》

中国は過去二度にわたって日本を手本として学んだことがある。一度目は日清戦争に敗れた後である。明治維新により封建制度を近代国家に切り替えた日本は、僅か30年足らずで大清朝に打ち勝った。その奇跡を学ぶため孫文、魯迅ら大勢の幹部や留学生が日本に渡った。

二度目は第2次大戦で焼野原になった日本が、勤勉と科学技術によって世界第2の経済大国を築いたことに学んだ。

そして今こそ三度目。金融危機に始まった世界不況の中で日本は少しも乱れていない。これは日本人民が長い歴史を通して到達した高い教育レベルによるものである。教育こそすべての根幹をなすものであることを日本に学ぶべきである。(人民網)

《危機の下、日本はなぜ混乱しないのか》

日本発展の奇跡は経済によるだけでなく、福祉政策によるものである。これは70年代の高度発展の後、80年代のバブル崩壊以前に基本的に完成しており、現在の経済後退に対抗できる力となっている。日本の2008年GDPは第3四半期にマイナス12.7%まで急落して世界から注目され、太平洋戦争に次ぐ“第二の敗戦”と称されるほどである。

とは言え、では日本の国民大衆は家計が赤字のため衣食に不自由しているだろうか？ こどもを学校にもやれず、病気になっても医者にかかることも出来ず、街に乞食がふえ、貧困による揉め事が多くなっているだろうか？ そんなことは無い。

在日十数年におよぶ某中国人学者によると、90年代初めから10年にわたるバブル崩壊の時期でさえ、日本人の生活はかなり安定し、表面上はそれほどの変化が見られなかったと。これは失業保険を含む完備した社会保障制度によると彼は言っている。

(以下医療、介護、生活保護、失業、年金などの制度を説明)

これらの制度によって、大多数の日本人は自分たちが“平等な世界”“無階級社会”にあると考えており、これこそが80年代以降幾度となくやって来た経済危機にも落ち着いて対処できた理由なのだ。

中国は今まで疎かにしてきた福祉政策について、日本を手本として学ぶことが最も重要である。

(東方網 2月24日)

《米日の企業トップ、なぜこうも違うのか》

米国共和党上院議員チャールズ・グラスリー氏は3月16日「AIGトップは責任をとることに失敗した」と次のように語っている。

1)米ビッグ3のトップは議会で国家支援が必要な要請をするため自家用ジェット機でやって来た。日本航空の社長は通勤に公共バスを使っている。

- 2)米ビッグ3は政府救済に頼ろうとするが、日本のトヨタはトップが自発的にボーナスを投打った。
- 3)メルリリンチ前社長は過度に贅沢な振舞いでクビになった。トヨタ、ソニー、東芝、ホンダ、日立など日本大企業の社長は、自主的に世代交代を進め、新しい体制で危機を乗り切ろうとしている。
- 4)日本企業トップの平均報酬は、米国の4分の1である。(人民網 3月27日)

人民日報ネット上のこれらの記事は、観察が浅く実体から遊離している点も少なくない。また親日的論調はまだごく一部であって、偏狭なナショナリズムを煽る論説などもかなり見受けられる。しかし中国共産党の機関紙である人民日報の動向は、たとえばささやかであったにせよ、中国そのものの変化を示唆しているようで非常に興味深い。

小泉首相の靖国参拝で凍りついた日中関係が、安倍・福田・麻生内閣と繋いで今ようやく春の暖かさを迎えている。「ほれて眺めりゃ アバタもエクボ」という俗言は、その逆もまた真なりだ。日中はなるべく相手のよいところを眺めて、仲良くやって行きたいものである。(09.04.15 高橋重夫)

日本語教室から

昨年11月福島大学の留学生より日本語を教えてくださいとの依頼があり会員の協力を得て日本語教室開催することになりました。(岩間真弓)

日本語教室に参加して

昨年12月より、日本語教室に参加させていただいています。今まで日本語を教えた経験がなかったので、最初はできるかどうか不安もありました。3月までは、生徒のレベルに合わせて、少人数でのグループ形式で授業を行っていました。授業というよりは相互学習のようなレッスンでしたが、正しい日本語を教えることの難しさを考えさせられました。動詞の活用や言葉の微妙なニュアンスの違いなど、

日本人が自然に使い分けていることが、うまく説明できないのです。これからかなり勉強が必要だと感じました。4月からは、前半は授業、後半は個別レッスンという形式でスタートしました。しかし、生徒がまだ少ないので、もうすこし増えてほしいところです。

この活動を通して、学生の日本語能力が向上し、また楽しく日中交流ができればいいと思っています。

(安齋紀子)



日本語教室生徒の作文

今日は中国的农历大年三十 - - 除夕,对于中国人来说,这一天不论你在哪里,都要尽可能地回家,跟家人吃顿团圆饭,一起看春节晚会。今年的除夕我在日本,今天中午我们中国留学生和日中交流协会的会员一起包饺子,虽然南方除夕没有包饺子的习惯,但看到一个个热气腾腾饱满的饺子时,还是顿感亲切温馨。吃完饺子,我们做游戏,所有的游戏都是第一次玩,最后的环节是 BINGO,很幸运我第一次玩也第一个成为 BINGO,我挑了唯一的一个篮球,在场的男同学都羡慕不已,很开心,希望牛年能带给我好运。

今年是第一个不在家过的除夕,每逢佳节倍思亲,正如家人挂念着我一样,远在日本的我也一样挂念着家人,不免伤感,但是和日本友人一起过除夕,又是一种新鲜的感觉,既可以增进感情,又可以促进中日交流。

牛年,这一年我有很多的事情将去努力,去追求,去实现,朝自己的理想迈进,希望有个好

的开始。愿大家身体健康，中日人民的友谊细水长流，明天会更好。

(福岛大学留学生 大学院生 林枝)

大晦日 (上記訳文)

今日は中国の旧暦でいうと12月30日 つまり大晦日です。中国人は、この日たとえどこにしようと、できるだけ故郷に帰って、家族と団円飯(注1)を食べ、「春節晚会(注2)」を見ます。私は今年の大晦日は日本にいて、お昼には中国人留学生と日中交流協会の会員の皆さんと一緒に餃子を作りました。実は中国の南方には大晦日に餃子を食べる習慣がないのですが(注3) もうもうと湯気に包まれた餃子を見たとき、心温まる思いがしました。餃子を食べ終えてから、ゲームをしました。どのゲームも初めてするものばかりでした。最後にビンゴゲームをしたのですが、幸運なことに、初めてにも関わらず一番早くビンゴになり、賞品にたった1つしかなかったバスケットのボールを選びました。周囲の男の子たちはみなしきりに羨ましがり、とても楽しかったです。この丑年が幸運を運んでくれるといいなあ。

今年の大晦日は初めて実家に帰らなかった大晦日でした。いつも祝祭日が来るたびに家族のことが懐かしく思われ、中国にいる家族が私を心配してくれるように、遠く日本にいる私もまた家族のことが気になり、感傷的な気持ちになります。しかし日本の友人と一緒に過ごす大晦日はまた新鮮で、友情も中日交流も深めることができます。

丑年 今年、私は努力し、追及し、実現しなくてはならないことがたくさんあります。自分の理想に向かって邁進し、新たなスタートを切ることができたらいいと思います。皆様のご健康と、中日両国の人々の友好が未永く続き、よりよい明日を迎えられることをお祈りいたします。

(福岛大学留学生 大学院生 林枝)

(注1)「団円飯(团圆飯)」は祭日などに家族揃って食べる食事のこと

(注2)「春節晚会」は毎年旧暦の大晦日に放送さ

れる番組。日本でいう「紅白歌合戦」のようなもの

(注3) 林枝さんの故郷は中国南部の福建省です
(安齋紀子訳)

私の父

私の家は普通の家としては、幸せな家だと思います。今回紹介したい人は、私のお父さんです。お父さんはタクシーの運転手で、毎日まじめに運転しており、仕事時間はいつも10時間を超して、疲れることと思います。

お父さんは今年52歳、しかし毎日の元気な笑顔から若く見えます。彼はお酒を飲まないし、タバコを吸わないし、一番好きなものが魚釣りです。週末には一人で川に行き、一日かかってもいつも何も釣れなかったです。それでも彼は数十年というもの、この釣りを楽しんでいます。偶に、次のようなことを言って、自分自身を慰めています。

「毎日が忙しい人生、考える時間も少ない。だから釣りは、仕事をやる上で貴重な思考のとき。時間を浪費しているのではないよ」

彼の楽観的な性格は、私に深く影響しています。常に私にやさしくて、私の間違いには本当にきびしいと思います。苦難に遭遇した場合は、自信を持って何の困難でも解決できるという、お父さんの性格を受け継いで、それ

で私は今、勇気を持って、自分の人生を歩んでいます。お父さんは普通の人ですが、私には一生の手本です。(李蓓)



1月25日の春節祭で、振袖を着てニコリの李さん

素晴らしいお父さんですね。孝行してあげてくださいね。李蓓小姐 加油!! 佐藤 満

(選者注)課題「私の家族」の提出者4名から選びました。添削は漢字など原文を尊重して、「見本 手本」など僅か。文章の構成に重きを置きました。

紅 桜 束

(レッドポピー・パーカッション)

楽団に同行して

今回は、3月15日に開催され“第8回飯坂温泉太鼓まつり”に唯一の海外団体として参加した“紅桜束(レッドポピー・パーカッション)楽団”の来日公演に通訳として同行しました。日本ではあまり知られていませんが、中国大陸はもちろん、世界20カ国以上での公演を重ね、北京オリンピックの開会式でも演奏したという、中国では有名な女性グループです。打楽器(東洋の太鼓、西洋のドラムなど)を使っただけの演奏が特徴で、太鼓を打つグループとい



今回演奏された缶 (fōu)

うことで、このイベントに招待されました。楽器は違いますが、大ヒットした“女子十二楽坊”に近いスタイルと言えば分かりやすいと思います。

公演の目玉は“缶(fōu)”という打楽器を使っただけの演奏です。3000年以上の歴史を誇る中国の楽器で、北京オリンピックの開会式では、競技場全面に並べられた2008台の缶を、男性奏者が力強く打ち鳴らした様子は、まだ記憶に新しいことと思います。大きさは縦横約1メートルの正方形、重さは約120kg。その音色は悠久の歴史を感じさせるような低い音程で、中国史に名を馳せる英雄達もこの音色を聞いたことでしょう。太鼓まつり実行委員会幹部の強い熱意が、文化庁や中国大使館を動かし、なんと福島で、缶の初めての海外公演が行われたのでした。

会場には立ち見客が出るほどで、紅桜束の演奏も大成功でした。一口に太鼓と言っても、いわゆる日本の和太鼓とも違い、大小数種類の太鼓やドラムを取り混ぜ、ときには激しく、ときには優しく、さらに武術の要素を融合させ、独特のリズムを奏でていました。ヌンチャクをパチ代わりにして太鼓を打つ演奏方法があるとは、夢にも思いませんでした。

缶はその音色を轟かせるだけでなく、演奏後に展示公開されたので、お客様も身近に感じられたようです。この太鼓祭りに参加したのは、紅桜束を含めて合計9団体です。彼女たちは若くてもプロとしての自覚があり、時間の許す限り他グループの演奏を見ていました。私達には当たり前に見える和太鼓の演奏が、新鮮に思えたようで、夕食時にはその話題で盛り上がりました。

公演以外にも、マスコミ表敬訪問、小学校児童との交流、スキー体験、ショッピングなどの日程でしたが、とても素直で気さくなメンバーばかりで、このたびの福島滞在を大変楽しんでいました。



メンバーとの集合写真

私は通訳案内士として、中国語圏のお客様に日本という国を様々な面から紹介しつつ、日本ファンを増やしていくのが使命とっております。と同時に、日本滞在中により多くの金額を気持ちよく消費していただき、地域活性化のお役に立ちたいとも考えています。次はどのようなお客様にお会いできるか、楽しみです。

(高橋 康)

大連市政府受け入れ
大連大学学習団・事前学習

渡航を前に高橋団長の講演

今年度の中国語学習団の研修先は、遼寧省大連市政府副秘書長の于建軍さんのご紹介により大連大学になりました。

団長は、大連市政府受け入れの事情もあり、高橋重夫さんに強くお願いし、以下参加者人数15名と決めました。そして、4月27日に事前学習として高橋重夫団長の講演を頂きました。



講演中の高橋団長

講演は「遼東半島・大連・旅順 北東アジア歴史の十字路」と題して、その内容は日清、日露戦争を中心に、古代の民族の興亡から近代のわが国軍部の暴走、破局に至るものでしたが、講演時間が1時間余りで予定が控えていたため、第一次世界大戦以降のことには触れられず終わりとなり残念でした。残る話は今後何かの機会に、またお願いしたいと思います。

朝鮮情勢をめぐる清国との対立、清国海軍の北洋艦隊や李鴻章のこと、そして日清戦争直後のいわゆる三国干渉で、ロシアの東のウラジオストクに通じる南の旅順、大連の不凍港確保など、侵略政策の露骨さは目に余るものがあり、それを危惧しての日露戦争、その間の天津事件にも触れられて、興味の尽きないお話でした。有難うございました。

(佐藤 満)



渡航準備すすむ

団員用・小冊子出来上がり

来る5月24日の大連大学学習団の渡航を前に、この程岩間代表幹事手作りの素晴らしい団員用小冊子が完成し、参加者全員に配布されました。「大連の地理」「歴史」「大連の気候」から、連大学の紹介、お食事マップなど微に入り細に亘るもので、一同これを手にしていよいよの感を深くしました。

(佐藤 満)



旅行冊子の表紙と記事の一部



大連大学紹介



開発区に位置する総合大学

大連大学は1987年に中国教育委員会からの承認を受け、多くの学科を持つ総合大学として設立されました。95年から留学生の受け入れを開始し、開発区という立地条件から留学生の中には働きながら中国語を学んでいる勤勉な学生や、企業から派遣された留学生なども多く、きれいな環境と完備された施設は留学生の学習環境と生活に良い条件を提供している。



おめでとうございます!

【ご結婚】



会員 鈴木歩（旧姓大須賀歩）さん



会員 安斎紀子（旧姓高橋紀子）さん



第1期中国語会話教室講師 刘劲聡老师

【ご出産】

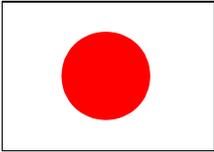


会員 鈴木ひろみさん長男

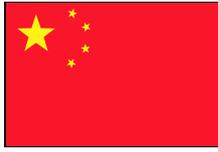


会員 菅野律子（旧姓大橋律子）さん長女





お知らせ



いつも福島日中文化交流会へのご支持とご協力感謝申し上げます。

平成21年度の会費及び各種会費納入のお願い

下記へよろしくお願ひいたします。

会費納入について

- (1) 郵便局振込みの場合(お近くの郵便局で)
02220-7-105525 福島日中文化交流会
- (2) 銀行振り込みの場合
振込先:普通預金 東邦銀行保原支店
口座番号:733649
名義人:福島日中文化交流会
代表幹事 岩間真弓
住所:〒960-0613
伊達市保原町字内町 21-5
- (3) 会費について
法人会員 10,000円 個人会員 3,000円
中国人会員 500円

中国語会話教室からお知らせ

中国語会話教室第34期募集!

日時:平成21年4月~平成21年9月

(時間は各級による)

場所:福島市中央学習センター

内容:入門・初級・中級

費用:一ヶ月3,000円×6ヶ月=18,000円

講師:李淑薇・岩間真弓

一クラス分の授業料で3クラス受講可能

第68回中国語検定試験開催

日時:平成21年6月28日(日)

場所:福島テルサ

内容:準4級・4級・3級・2級・準1級

「当面の行事のお知らせ」

1 花架拳教室

日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)

場所:福島市中央学習センター

内容:護身術である花架拳を演舞する

費用:平成21年4月~平成22年3月(9,600円)

講師:日本花架拳学会 飯田加寿子



2 健康マージャン教室

日時:毎月第2日曜日(都合により変更もある)

場所:福島市中央学習センター

費用:1年分 6,000円(500円×入会月から)

内容:吸わない・飲まない・賭けない健康なマージャン

3 日本語教室

日時:毎週木曜日 16:00~17:30

場所:福島市中央学習センター

講師募集!

内容:中国人に日本語を教える

*講師料はお支払いできません。教科書各自負担。



4 中秋節交流会

日時:平成21年10月3日(土)

場所:未定

内容:いも煮・月餅を食べて楽しく交流



5 どのような広場

日時:平成21年11月14日(土)

場所:福島市中央学習センター

内容:中国語「中国語っておもしろい!」

6 日中スキー交流会

日時:冬季

場所:未定

(お知らせ)

日中文化交流サロンについて

昨年度、参加者が大変少なかったため、申し訳ありませんが取りやめました。ご協力いただきました会員のみなさまどうもありがとうございました。

しかし、昨年11月より中国人へ日本語を教える「日本語教室」(上記ご参照)を行っております。

前号記載一部訂正

本誌第3号には、山尾展正さんより「西安のトルコ行進曲」の寄稿を頂きましたが、記載のピンイン、TINBUDONG(9ページ左段、下から18行目)についてTINGBUDONGに訂正の依頼がありましたのでお知らせ致します。

編集後記

今回は春節、日本語教室、他の記事、写真を多く寄せて頂きありがとうございます。いろいろなイベントが多く企画されてますので、大勢のご参加でより楽しい交流会を期待しております。

今後も皆様から多くの情報のご提供を宜しくお願いします。

(編集担当 佐藤満、加藤一朗)